



見て、触れて、感じよう。

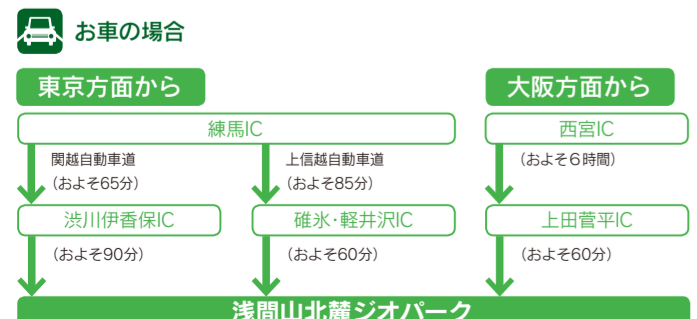
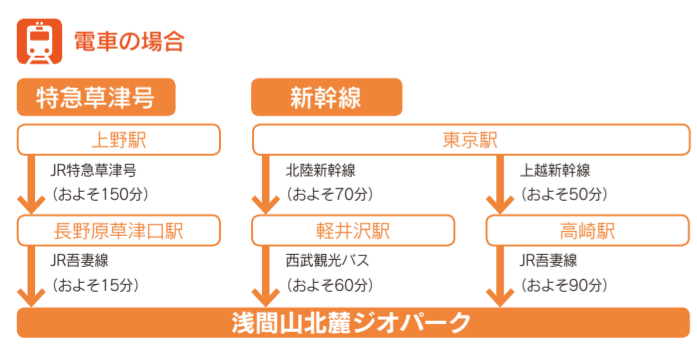
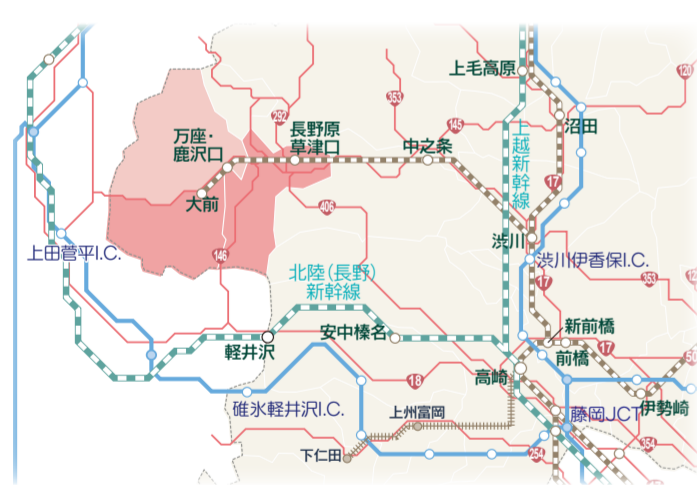
驚天動地の浅間山北麓ジオパーク

浅間山北麓エリアは、日本列島のほぼ中央に位置しています。およそ1,500万年前に日本列島が今の位置に定まった時、この一帯は日本海と太平洋をつなぐ海が広がる海溝（フォッサマグナ）にありました。1,000万年前には隆起して陸地化したといわれますが、驚くことにこの地下深くには3つのプレートがせめぎ合っています。浅間山は、北海道西部から南下してくる火山前線が那須火山エリアで大きく方向を北西に曲げ、浅間山に到り、今度は富士山の方へ南下するという大屈折点を造っている場所です。

この浅間山の活動は関東の台地に幾度となく堆積物を流出しただけではなく、関東ローム層の形成にも深く係りました。新しいところでは、天明の大噴火によって利根川の下流域にまで災害を及ぼした記録が残されています。火山が創った台地と自然、そして人々の高原の暮らしは浅間山北麓の大きな特徴です。

写真提供：国土交通省利根川水系砂防事務所

交通アクセス

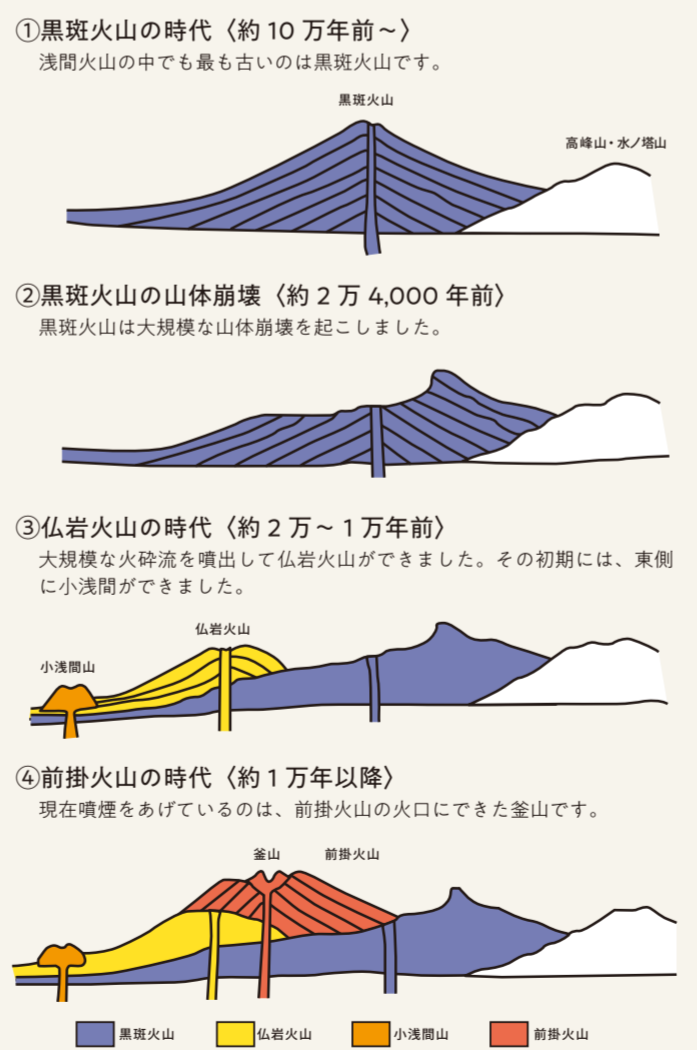


年表

- 40万年前頃 烏帽子火山が活発化
- 20万年前頃 古孺恋湖が存在
- 10万年前頃 黒斑火山で噴火活動が始まる
- 2万4千年前頃 黒斑火山が山体崩壊、前橋台地を形成・応桑付近に多数の流れ山
- 1万7千年前頃 仏岩火山で噴火活動が始まる
- 1万3千年前頃 仏岩火山で浅間山最大の噴火
- 8,500年前頃 前掛火山で噴火活動が始まる、現在まで断続的に活動
- 2,500年前頃 火山活動が大規模になってくる
- A.C. 3~4世紀頃 3~4世紀の大噴火、下の舞台溶岩
- 1108年 天仁元年の大噴火、追分火砕流・上の舞台溶岩
- 1397~1562年 鎌原城が存在
- 江戸時代 信州(大笹)街道が全盛
- 1783年 天明三年の大噴火、鎌原村・吾妻川流域が被災
- 江戸末~明治初 東御市~鹿沢温泉に百体観音が建立
- 1882年 浅間牧場が開設
- 1915年 草軽電鉄運行開始
- 1926年 鹿沢温泉で「雪山讃歌」が誕生
- 1927年 別荘地「法政大学村」の始まり
- 昭和初期から 孺恋村にキャベツ栽培を本格導入
- 1945年頃から 戦後の南木山開拓

浅間山北麓ジオパーク

浅間山のなりたち



エリア紹介

A 山頂エリア
浅間山の初期に活動した黒斑山とその山体崩壊、仏岩、前掛山からなる浅間山の生成史に従って、それぞれの時代の火山体や高原状の広大な裾野を観察・眺望できる。

B 鬼押し出しエリア
浅間山の火山活動に伴う噴出物の様子を直接見ることができる貴重なエリアで、特に前掛火山の4世紀、天仁元年、天明三年の堆積物を観察できる。溶岩上に遊歩道があり、巨大な溶岩の中を散策することができる。

C 北軽井沢エリア
天仁元年に起きた前掛山の噴火による堆積物(流れ山)が見られるほか、黒斑山の山体崩壊堆積物が点在している。草軽電気鉄道が大正から昭和中期にかけて運行しており、人々の暮らしに根差したジオサイトも多い。

D 湯の丸エリア
烏帽子火山群内を範囲としている本エリアは、多くの高山植物が見られる花の名山として知られる。レンゲツツジ群落は国の天然記念物に指定され、生息する高山蝶のうち3種類が県の天然記念物に指定されている。

E 鎌原大笹エリア
関東から信濃国、越後国方面を結ぶ交通の要所として、城や街道、関所が整備された。この地は度々火山災害により被害を受けている。また、地質的記録から過去にこのエリアを含む広大な範囲に湖があったことも分かっている。

F 吾妻川エリア
浅間高原をほぼ西から東へ横切るように流下する吾妻川。国道や鉄道も河川沿いに敷設され、多くの住居が両岸に広がる。両岸には多くの崖地形が見られ、浅間山と草津白根山の噴出物の境界であり、2020年にハッ場ダムが完成した。

7つのテーマ

- 稀にみる火山地形**
浅間山の10万年にも及ぶ様々な火山活動の不思議に出会うことができます。
- 未曾有の災害からの復興**
天明三年の大噴火がもたらした災害と、そこから立ち上がった人々の歴史が残されています。
- 零から始まった植物遷移**
噴火ですべてが失われた植物が2百数十年かけてよみがえってきた遷移の状況を一望することが出来ます。

- 高原野菜一大産地への変貌**
農業には適さない火山灰土壌を長年の改良努力により生産日本一となったキャベツ畑が一面に広がっています。
- 浅間山が生んだ名勝吾妻渓谷**
100年以上に及ぶ浅間山北麓地域を囲む山々の誕生と共に流域を変えた吾妻川が造った美しい吾妻渓谷にはその歴史を語る地層が顔を出しています。
- 3つもの関所を有する信州街道**
江戸時代この地を東西に貫いた信州街道は善光寺や草津温泉に向かう旅人、多くの商品を運ぶ人馬で賑わった証がここにあります。
- 荒涼とした平原が別荘地へ**
軽井沢と草津を結ぶ草軽鉄道と自動車専用道路の開通で素晴らしい自然景観を楽しむ別荘地に生まれ変わりました。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院長の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 金元信使、第415-GISHAP43337号) 北海道地図株式会社

C 北軽井沢エリア



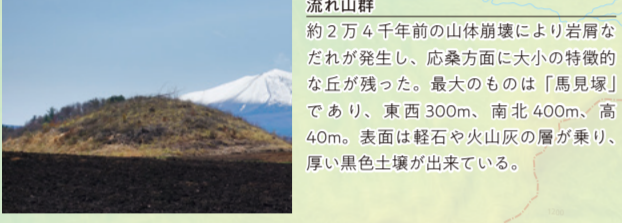
拠点施設 北軽井沢観光協会
北軽井沢の中心街に位置し地域の観光情報の他、気象や交通など地域の情報を発信する拠点施設。車載交通のバス停があり軽井沢駅からのアクセスも良好で、周辺の観光通りやトレッキングの拠点として活用できる。

旧草軽電鉄北軽井沢駅舎
新軽井沢から草津温泉東を結んだ草軽電鉄駅の駅舎。旅客輸送と共に、木材、薪炭、硫黄などの貨物を輸送した。年間最大利用客数46万人を数えるも、災害や自動車輸送の発展により昭和37年に廃線。国の登録有形文化財。



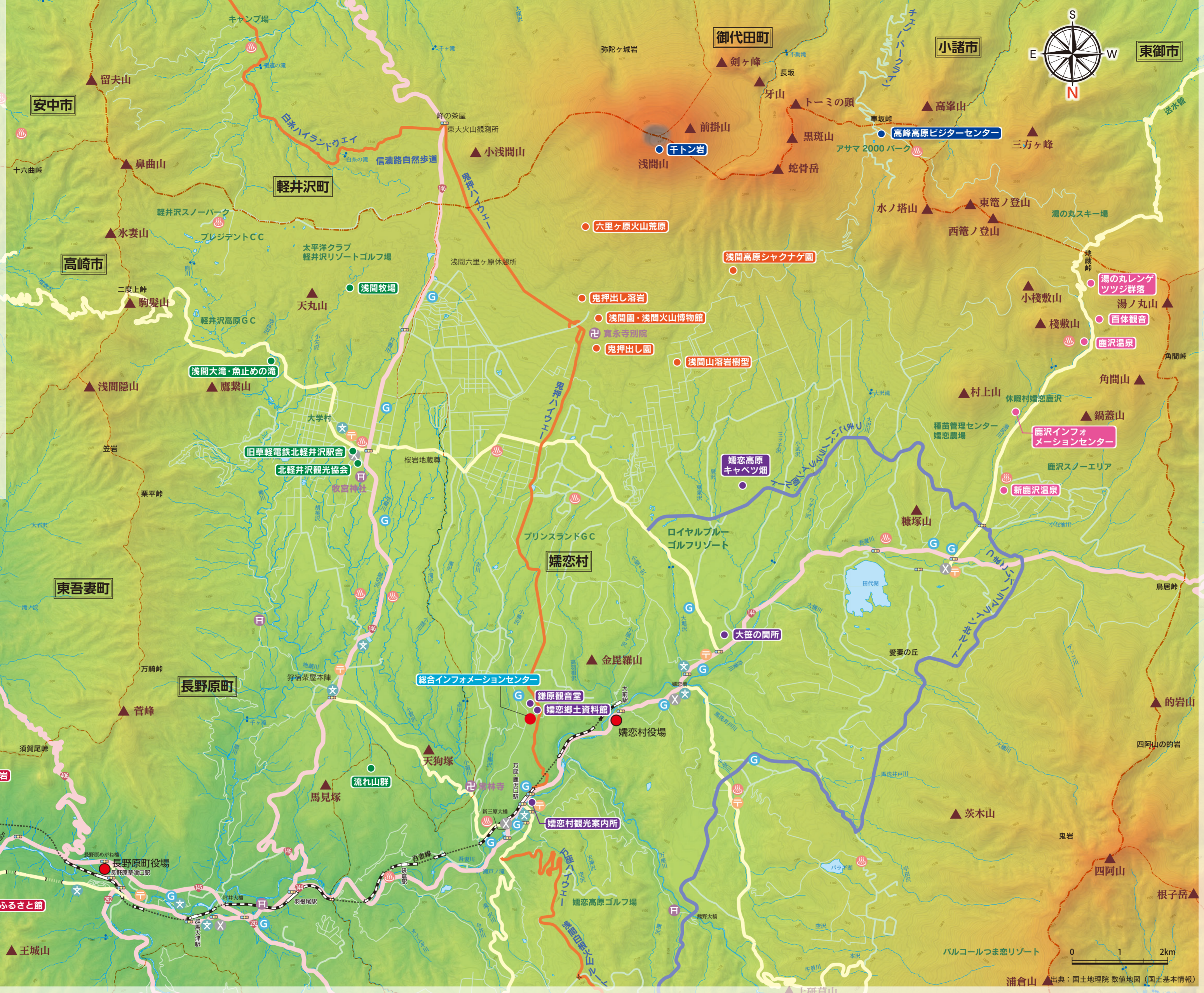
浅間牧場
標高1300mに広がる800haの県営牧場。約500頭の乳牛を酪農家より預かり飼育している。昭和初期に大ヒットした歌謡曲「丘を越えて」は、ここがモデル。また日本初のカラー映画「カルメン故郷に帰る」のロケ地にもなった。

浅間大滝・魚止めの滝
吾妻川の支流・熊川にかかる幅約2m、高さ約10mの周辺で最大の滝である。大滝の下流にある魚止めの滝は、「魚が登りきれないほど激しい滝」という名前の由来通り、3段にわたる落差が大迫力の滝である。



流れ山群
約2万4千年前の山体崩壊により岩なだれが発生し、応答方面に大小の特徴的な丘が残った。最大のは「馬見塚」であり、東西300m、南北400m、高40m。表面は軽石や火山灰の層が乗り、厚い黒色土壌が出来ている。

凡例		
神社	学校	温泉
寺	交番	郵便局
ガソリンスタンド		



A 山頂エリア



拠点施設 高峰高原ビジターセンター
浅間山の案内や自然体験プログラムを実施。施設周辺では高山植物が楽しめる。1階のギャラリーでは高山蝶の写真や火山防炎の情報が提供されている。地元食材を使ったカフェ・レストランがある。

千トシ岩
昭和25年9月の噴火で噴出された火山岩塊で、現存する最大のものとされている。その大きさが「千トシ岩」と呼ばれるが、実際には2〜3千トシはあるものと推定されている。

D 湯の丸エリア



拠点施設 鹿沢インフォメーションセンター
上信越高原国立公園内にあり、公園の利用案内の他、鹿沢周辺の自然や歴史・文化に関する展示や解説が常設されている。四季を通じて自然観察会などのイベントが開催されており、誰でも自由に利用することができる。

湯の丸レンゲツツジ群落
「関東で唯一」とも言われる、60万株を超えるレンゲツツジ群落が自生。272haの広大な範囲が国の天然記念物に指定されている。6月中旬〜7月上旬が花の見ごろで、湯の丸一帯の高原を真っ赤に染める。



百体観音
鹿沢温泉までの「湯道」に観音像が丁ごけに配置され、その距離が百丁であったことから「百体観音」と呼ばれた。観音像はそれぞれ大きさも形も違い、10番ごとに大きく通られている。嬉恋地内には八十番から百番が現存する。

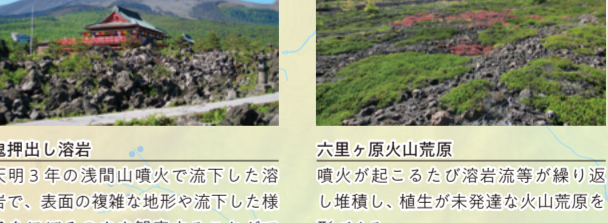
鹿沢温泉・新鹿沢温泉
手負の鹿が傷を治したことから名付けられた温泉。湯の丸山の中腹に位置し、泉質は炭酸水素塩泉。江戸から明治にかけ湯治場として栄え、大正7年の大火を経て現在の新鹿沢温泉に移転した。「雪山賛歌」発祥の地としても知られる。

B 鬼押し出しエリア



拠点施設 浅間山・浅間火山博物館
火山博物館や自然遊歩道など浅間山を間近で学ぶことのできる総合学習施設。高原植物も楽しめる。

鬼押し出し園
天明の噴火の際に流れ出した溶岩が固まり作られた、奇形な岩場観が楽しめる名勝地。



鬼押し出し溶岩
天明3年の浅間山噴火で流下した溶岩で、表面の複雑な地形や流下した様子をほぼそのまま観察することができる。未だ植生も乏しく、雄大な溶岩台地の土を歩くことができ、火山活動を全身で体感することができる。

六里ヶ原火山荒原
噴火が起こるたび溶岩流等が繰り返し堆積し、植生が未発達な火山荒原を形づくる。駐車可能な浅間六里ヶ原休憩所があり、荒涼とした大地が一面に広がる。東方には半田形の特有な形をした小浅間山の溶岩ドームが見える。

F 吾妻川エリア



拠点施設 道の駅・ハッ場ふるさと館
ハッ場ダム建設事業により水没する地域の生活再建と地域振興を目的とし建設された。農産物直売所や食堂、休憩コーナー、天然温泉の足湯などがある。ツアーや紅葉ハイキング、ホテルの催業などが人気。

丸岩
吾妻川の右岸に位置し、三方は100mにも達する垂直の崖となっている。柱状節理とベレー帽をかぶせたような形が特徴で、溶岩と断層が生んだ独特の景観である。道の駅「ハッ場ふるさと館」から一望できる。標高1124m。丸岩はハイキングに最適。

E 鎌原大笹エリア



拠点施設 嬉恋郷土資料館
「浅間焼け」と言われる天明の噴火と、これに起因する災害を中心に紹介。夏秋キャベツ生産量全国一を誇る嬉恋高原キャベツ栽培の歴史や、スピードスケートを紹介するコーナーも。展望室では雄大な景色を一望できる。

拠点施設 嬉恋村観光案内所
頂 吾妻線「万原・鹿沢口駅」前に位置し、エリアの玄関口にふさわしく、観光パンフレットをはじめイベント情報なども取得可。飲食可能なフリースペースもあり、シャウトリ通りの拠点として利用出来る。フリーWi-Fi完備。

E 鎌原大笹エリア



鎌原村・鎌原観音堂
天明3年に発生した土石なだれにより村が壊滅した際、唯一残った建物。村民の一部は観音堂に避難し助かった。隣接するおこもり堂では災害の語り部として、地元の人による伝え語りも今も続いている。

嬉恋高原キャベツ畑
火山の活動により形造られた高原はキャベツ栽培に適し、大型機械使用の農業を可能にした。火山の噴出物が堆積した土壌、成育に適した気候、そして昼夜の温度差が美味しいキャベツを育て、嬉恋村は名産ともに日本一の産地となっている。

E 鎌原大笹エリア



大笹の関所・抜道の碑
仁礼街道の通行人を取締るために江戸時代に設置された。現在は復元された門扉があり、大笹の宿場町の賑わいを伝える史跡となっている。関所を迂回する「古道」と呼ばれる抜道の存在を示す石碑は当時の面影を今に残す。

総合拠点



総合インフォメーションセンター
ジオパークの総合案内所です。ガイドの受付も実施しています。詳しくはお問合せください。
電話：0279-82-5566

浅間高原シャクナゲ園
不可能と言われたシャクナゲ栽培に日本で初めて成功した道園会社の坂井敬一氏が、シャクナゲを嬉恋村に寄付し、ボランティアで植樹を手伝い造園された嬉恋村の公園である。浅間山溶岩樹型
天明3年の噴火による吾妻火砕流が森林地帯に流れ込み冷たい固まった跡で、昭和27年に国の特別天然記念物に指定された。火砕流が森林地帯に流入してきた樹型が残ることは極めて珍しい現象とされている。

F 吾妻川エリア



吾妻峡
過去の浅間山噴火に伴う火砕流や土石なだれなどが幾度も流下し、谷が浸食され作られた深谷は、上毛かるたにも「耶馬深しの吾妻峡」と謳われるほど深く美しい。春の新緑・秋の紅葉はハイキングに最適。

ハッ場ダム
群馬・長野県境の鳥居峠を源とする利根川水系の一級河川・吾妻川に、令和2年に完成した洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道及び工業用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムです。